

授業科目名	忍ヶ丘教養Ⅱ	教員名	渡邊耕二 城戸佐智子 中原邦博	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	
					こども音楽療育士	
科目番号	SIN102	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	必修
授業形態	講義				幼保コース	必修
単位数	2単位					
科目						
各科目に含める 必要事項						
科目						
施行規則に 定める科目区分						
科目						
系列						
一般目標	<p>1年次から2年次までの2年間4期に渡って開講される忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳでは、学校法人宮崎学園の建学の精神「礼節・勤労」に則り、豊かな教養と高度な技能を備えた人材を育成するために、大学での学びの基礎を学習し、コミュニケーション能力に優れた教育者となるための基盤を身につけることを目標とする。さらには、地域社会から国際社会にまで広く貢献できる教員となるために必要な基本的知識・技能及び人格形成を目指す。これらの目標を達成するため、忍ヶ丘教養では「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」、「コミュニケーション能力の修得」、「地域・国際社会における教育の理解と教育者としてのキャリア形成」の各教育目標を達成するための授業を行う。</p> <p>このうち、忍ヶ丘教養Ⅱは、「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」と「コミュニケーション能力の修得」をテーマとしており、以下の3つの到達目標を設定する。</p>					
到達目標	<p>(1) 自主的、継続的な学習を進めていく上で必要な学習方法・学習スキルを修得する。 (2) 正しい日本語運用し、自分の意見の論点をまとめて論理的に相手に伝えることができる。 (3) 特定のテーマについてグループ内でディスカッションし、グループ内で意見をまとめ、1つの見解を得ることができる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている、2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている、3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>授業の構成は、大きく3つに分かれる。①コミュニケーションの目的について学び、上手な伝え方、聴き方についての基礎的な技術を学ぶ。②グループに分かれてテーマに沿ったディスカッションの練習を行い、他者と言葉のやり取りする中で他者の意見を聞く技術や、自分の考えを主張する技術を実演を通して学ぶ。③プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分達で設定し、自分達の主張を正しく相手に伝えるための資料作成、それを分かりやすく口頭で説明できるようになるために、プレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（城戸佐智子／6回） <p>コミュニケーションの目的や課題について学び、コミュニケーションとは何かを理解する。また、第一印象の影響について学ぶ。第一印象の影響や上手な伝え方、聴き方についての基礎的な技術の修得、さらには異年齢の相手との関わり方など実際の場面において効果的なコミュニケーションの方法を具体的な事例から学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（中原邦博／3回） 					

	<p>プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分たちで設定し、自分たちの主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（渡邊耕二／6回） <p>大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要な学術文献の理解と活用に関する応用的な事項（英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など）について学ぶ。そして、学術論文を読み、大学における学習に対する考え方や学習スキルを活用することを目指し、グループに分かれて教育問題についての課題演習を行う。</p> <p>各授業は、プレゼンテーション、グループディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングを取り入れる。</p>
履修条件・ 注意事項	<p>忍ヶ丘教養Ⅰを履修しておくこと。</p>
授業計画	<p>（担当：城戸佐智子）</p> <p>第1回：現代社会においてコミュニケーションツールとして一般的となったメールのマナーについて学び、ワークシートなどを通して身につける。（目標2）</p> <p>第2回：コミュニケーションにはどのような形態があるのかについて、グループで考え、それぞれのコミュニケーション形態の特徴について、意見を述べ合う（目標1）</p> <p>第3回：第一印象が対人理解にどれほどの影響を持つのかについて、簡単な実験を行い検証する（目標2）</p> <p>第4回：社会人としての伝え方や会話のマナーについて学び、ロールプレイ等を通して望ましい姿勢などについて意見を出し合う。（目標1）</p> <p>第5回：正しい敬語の使い方とTPOに合わせた振る舞い方などを学び、ワークシートや事例から理解を深める。（目標1）</p> <p>（担当：中原邦博）</p> <p>第6回：プレゼンテーションのテーマ設定をグループ内でディスカッションで行う（目標2）</p> <p>第7回：プレゼンテーションに向けての計画作成とグループにおけるディスカッションを行う。特に、どのような計画でプレゼンテーションを行った方がより効果的かについて意見を述べ合う（目標2）</p> <p>第8回：各グループがプレゼンテーションを行い、終了後に質疑応答を行う。質疑応答の際にはそれまでの学習内容を踏まえた質疑応答になっているかどうかについてチェックする（目標2）</p> <p>第9回：各グループが行ったプレゼンテーションの振り返りをし、プレゼンテーションの改善点について議論し、それを踏まえて再考する（目標2）</p> <p>（担当：渡邊耕二）</p> <p>第10回：大学における学習や研究を進める上で必要になる学術文献とは何か、またその種類について理解する。また、学術論文の検索方法についても学習する（目標1）</p> <p>第11回：英語で書かれた文献を含む学術文献の構成や各箇所には何がどのようにいるのかを事例を通して学ぶことで、その効果的な読み方を身につける（目標1）</p> <p>第12回：収集した学術文献をどのように集約及び整理したら良いのかその方法を学ぶ（目標1）</p> <p>第13回：グループに分かれ、教育問題に関する与えられたテーマに沿って学術文献を選び、収集する（目標2、3）</p> <p>第14回：グループ毎に収集した教育問題に関する学術文献の要約を基に発表資料を作成する（目標2、3）</p> <p>第15回：グループ毎に教育問題に関する学術文献の要約を発表する（目標2、3）</p> <p>定期試験</p>

<p>学生に対する評価</p>	<p>到達目標1～3の到達度を評価するために、定期試験（50%）とレポート・プレゼンテーション（50%）を総合的に評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習について</p>	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めること。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求める。</p>
<p>教材にかかわる情報</p>	<p>テキスト：適宜資料を配付する</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料等：特になし</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>教員や保育者を目指すためには、しっかりしたコミュニケーション力と専門的な知識・技術を身につけることが求められます。それらを身に付けるべき基本的な方法を学び、2年次以降の学びの質を高めてほしいと思います。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>渡邊 耕 二：木曜日 15：00～17：00 Email: kwatanabe@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p> <p>城戸佐智子：金曜日 13：00～16：00 Email: skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p> <p>中原 邦 博：木曜日 14：40～16：10 Email: knakahara@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p>
<p>備考</p>	